

はじめに

区民の皆様には、日頃より、区政の推進に御理解、御協力をいただきましてありがとうございます。

鶴見区は、戦後、日本の高度経済成長を支えてきた臨海部の産業の発展とともに、就業人口が増加し、それとともにまちも発展してきました。近年では、日本の重工業を支えていた工業の事業所数は、ピーク時の3割に減少し、工場の住宅への転用が進んでいます。

また、区の人口は、現在 29 万人を超え(市内 18 区中第 3 位)、世帯数約 14 万世帯(市内 18 区中第 2 位)となっています。横浜市が発表した将来推計人口によりますと、鶴見区の人口は 2042 年まで伸び続け、18 区の中で最後まで人口の増加が続くと見込まれています。

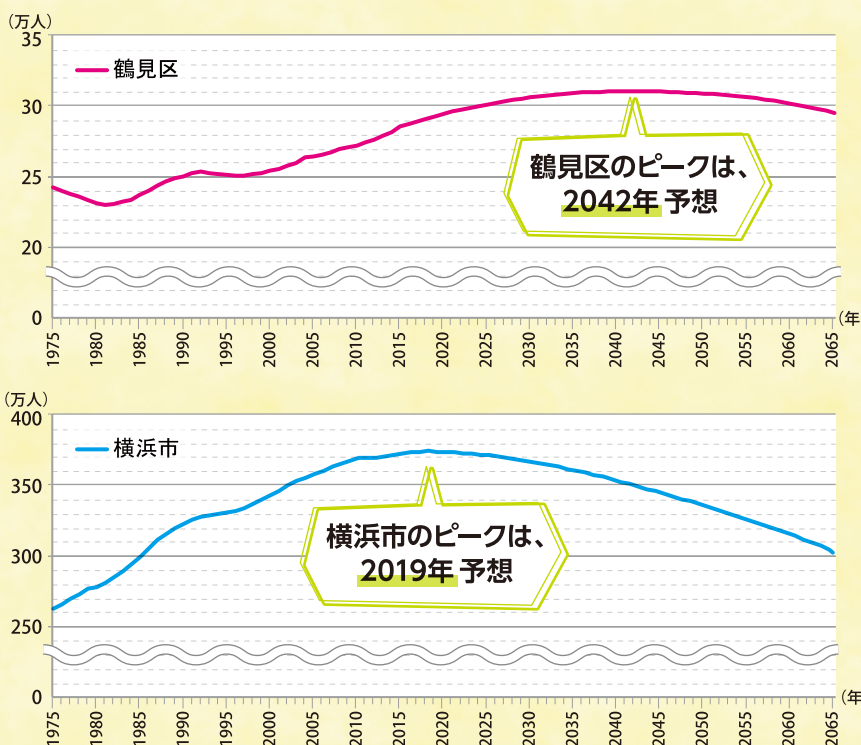
この「発見つるみ!データで見る鶴見区」は、人口や産業をはじめ、生活に関連する様々なデータを、鶴見区の特徴をとらえながら分かりやすくまとめています。これまでの鶴見、そして、これからの鶴見を考えていただく際の資料として、御活用いただければ幸いです。

発刊にあたり、貴重な資料を御提供いただきました関係諸機関をはじめ、御協力いただきました皆様に心から御礼申し上げます。

平成から令和へと元号も変わりましたが、今後とも「いつまでも住み続けたいまち・鶴見」を目指し、まちづくりを進めてまいります。

令和2年1月 鶴見区長 森 健二

COLUMN



鶴見区の人口は 2042年がピーク!?

鶴見区の総人口は、平成12年(2000年)頃から増加し、平成30年(2018年)には29万人を突破しました。横浜市の人口は、平成31年(2019年)頃まで増加し、その後減少すると予測される中、鶴見区は令和24年(2042年)に人口のピークを迎えると予測されています。

※2019年以降は、2015年の国勢調査に基づいた推計値

人口の統計情報はP4以降に掲載しているよ!



資料:行政区の人口の推移、横浜市将来推計人口(政策局)